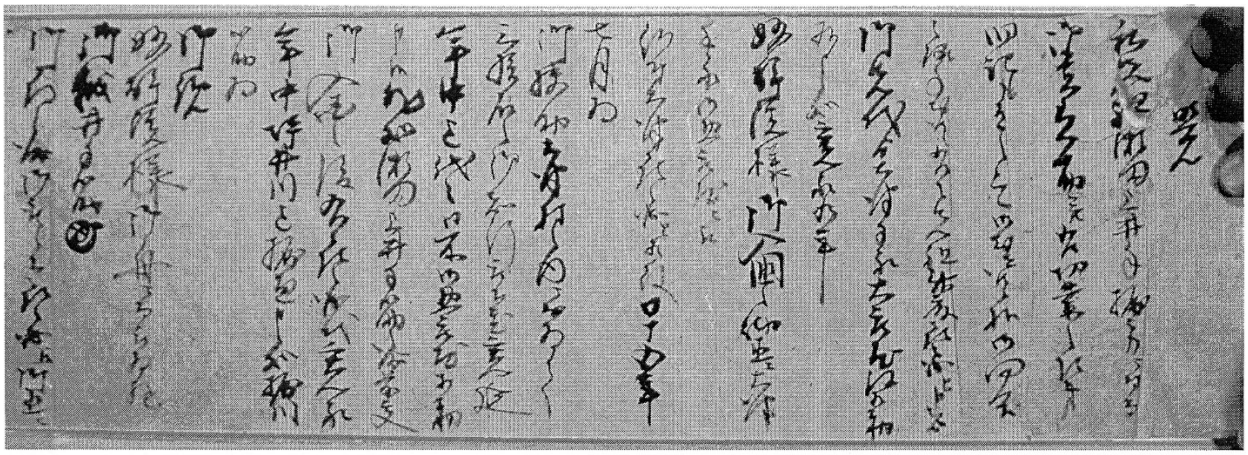

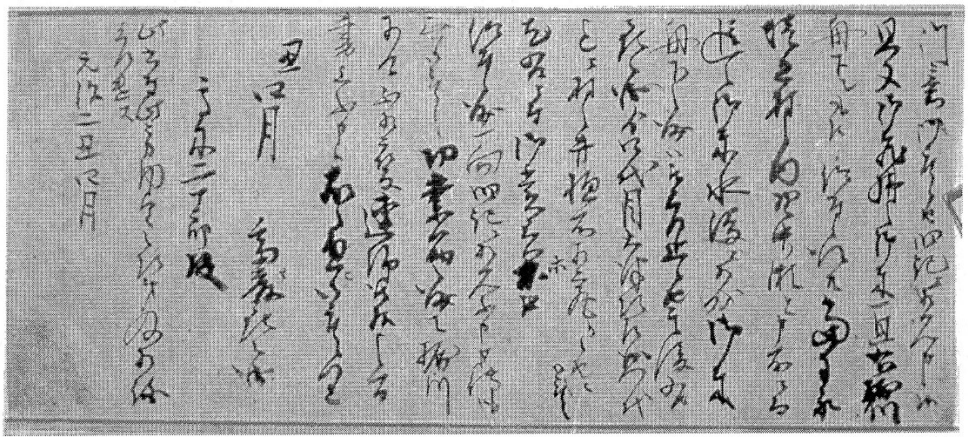

元治2年(1865)
斉藤喜兵衛
瀬田上井手の覚

斉藤家文書　補No.230

覚

私先祖瀬田上井手掘方ニ付而
御賞美筋并右功業之次第
旧記も有之候へ御知せ仕候様御問合
之趣承知仕候右之先祖斉藤喜兵衛と申者
御先代ゟ大津手永大庄屋役相勤
居申候処寛永九年(1632)
妙解院様御入国之砌直ニ大津
手永御惣庄屋ニ被
仰付大津喜兵衛と相改同十五年(1638)
七月為
御扶助大津村之内ニおゐて
三拾石之御知行被下置寛延
年中迄代々同所御惣庄屋相勤
申候然処瀬田上井手筋之儀前文
御入国之後右喜兵衛代寛永
年中坪井川迄掘通申候処掘川
筋為
御覧
妙解院様御舟ニ而被為遊
御越井手筋
御尋之儀御座候而喜兵衛江御直ニ
御意御座候由旧記ニ相見申候
且又御蔵拂之御米一旦右堀川
舟下シも被□仰付候得共当手永
塔迫村之内野中ノ瀬と申所ニ而
追々御米水浸ニ相成御米
舟下之儀へ被差止候由其後右
喜兵衛ゟ四代目大津次左衛門代
迄ニ村之井樋所相究リ候由ニ御座候
尤右ニ付御賞美等被
仰付候儀一向旧記ニ相見不申口伝も
無御座候功業筋之儀者掘川
にて不相変連綿仕様申候間
書上不申候右之通ニ御座候　以上

丑四月　　斉藤喜兵衛

高木二十郎　殿

此書付此方内望之次第為相添
差遣ス

元治二丑四月